

◇日時：2025 年 10 月 7 日（火）19 時～21 時

◇方法：Zoom によるオンライン形式

◇参加者 36 名

◇内容：単元構想案の相互検討④

【ルーム 1】 ファシリテーター：中澤静男（奈良教育大学）

1) 黒柳新奈さん(英語教育専修4回生)

高校3年 総合的な探求の時間「私たちの身の回りにある差別や偏見」

「私たちの中に差別意識、偏見はあるのだろうか？」→ ないと思う

読み物教材：自分にもジェンダー的意識があることに気づかせる

トランプ大統領の発言「性別は男と女の2つしかない」について考える

→ ジェンダー的意識が潜在的に定着している場合があることに気づく

私たちはどのような偏見や差別意識をもっているのだろうか？

ジェンダー的意識はどうして生まれたのか → 経験に由来するのか？

ジェンダー的意識は、すべての国の人にあてはまるのだろうか？

LGBTQの方へのインタビュー

会って、話をしてどのように感じたか

↓

表面的な部分や特徴だけで決めつけているのではないか。

国籍や性別などではなく、その人を見ることが大切

どうしたら差別・偏見を減らすことができるだろうか？

日本：LGBTQを自認している人は少ない 日本ではいやな思いをされている方が多いだろう

学びの発信についてアドバイスが欲しい

話し合いから

- ・ポスターだけでは弱い → 大きなアクションを起こしてほしい
- ・万博のトイレ事情 性的マイノリティへの配慮がある。
- ・SOGIについて

「SOGI」の「SO」：性的指向

「SOGI」の「GI」：性同一性

SOGI はすべての人に関わるため、性的少数者のみの LGBT という言葉よりも広い範囲を指す。

カテゴライズはよくない。すべての人を巻き込むことが大事

- ・発信方法に劇化がある。他の生徒や保護者にも見てもらえる
- ・ラジオもメリットがあるのでは
- ・掘り下げる時に。指導者の考えを押し付けることなく、子どもに深く考えさせるように。
- ・子どもの考えさせるにおいて、配慮すべきことが多くあることに気付かされた
- ・ウェルビーイングを大切にして考えるように子どもに伝える。

2) 芝田棕伍さん(社会科教育専修3回生)

中学校第3学年 社会科・公民「選挙ってなんだろう？」

最近の選挙にはSNSの影響が大きい

→ 若者の参加が多くなった。参加しながらよりよいものにしていく姿勢が重要

問い：選挙はなぜ行われるのだろうか？ → 大切な仕組みだということに気づかせたい

民主主義を支える選挙は、どのように行われ、どのような人が関わっているのだろうか？

※調査活動（グループ活動）

国によって、権利ではなく義務になっている 無投票者に罰則規定

メディアの影響力が大きい

※地元の首長を決める模擬選挙をする（AIを用いて、3名の候補者の演説を教材にする）

→ 何に注目して投票するのかは、人によって違うことに気づかせたい。

← 民主主義の意義理解につながる

多くの人が投票することは民主主義にとって大切

投票率の推移のグラフの提示 投票率を上げるためには、社会が変わらなければならない

投票権獲得の歴史をおさえる 投票権がない国があることを伝える

話し合いから

- ・ AIを活用した模擬選挙を試みるのはよい。AIはそれらしい演説をしてくれるので、生徒にとっても、どこに注目するかで迷いが生じるのが良い。
- ・ なぜ投票しないのかを考えさせる — 変わらない
- ・ 公民権運動の歴史を持つアメリカなどは投票率が高いのではないか
- ・ 自治会活動を教材にするのもよい←この街をよくしたいという思いで設立されている
- ・ 変わらなくてもいい、という意見の人も一定数いる。
- ・ ネット炎上のニュース 政治や選挙を左右する
- ・ 日本財団の18歳意識調査 中国・インド・韓国・アメリカ・イギリス・日本
自国の将来 よくなる 15.3%（最下位）
国や社会に役立つことをしたい 64.3%（最下位）
自分は責任がある社会の一員だと思う 61.1%（最下位）
ボランティア活動に参加したい 60.4%（最下位）
慈善活動のために寄付したい 58.4%（最下位）
自分は大人だと思う 49.6%（最下位）
国や社会を変えられる 45.8%（最下位）
自分はどうかなのかという内面を見つめさせ、発信する

3) 小南舞桜さん(社会科教育専修3回生) 小学校第6学年 総合的な学習の時間

『『NEW』白樺ニュータウン～住み続けられるまちづくりを考えよう』

白樺児童センター

昭和46年白樺南幼稚園として開設（樺原ニュータウン開発による人口増加）

平成19年幼稚園撤退（園児数減少による北幼稚園との統合）

平成21年 児童センター・子育てセンター・放課後児童健全育成センター化

白樺ニュータウンは高齢化による人口減だが、児童センターに通う子は多い。

→ 人口はこれからも減り続けるのだろうか。故郷がなくなってしまうのだろうか？

白樫小学校の効果は宮下学長が作曲した「白樫北・南小学校の児童や白樫ニュータウンの住民から公募された歌詞に軽快なリズムをつけました。いきいきと楽しく元気に歌い、校歌をいつまでも愛し続けてくれることを願っています。」

→ 地域外の方にも応援してくれている人がいる。→ わたしたちにも何かできないか。

私たちにできることを考える

話し合いから

- ・「続けられる町」と「住みたい町」を比較して考える。
- ・地域の人にニュータウンの魅力や課題を聞くことは大切。
- ・ニュータウン特徴 ダーッと増えてダーッと減る
- ・5年後の町について具体的に考える。
- ・田原本町の福祉交流花壇の実践 まちづくりを地域の人に手伝ってもらおうという発想
- ・同様のテーマで取り組んでいる学校と交流すると気づきを得られる

【ルーム2】 ファシリテーター：中村友弥（奈良市立朱雀小学校）

1)加地優太さん(数学教育専修3回生)

中学校第1学年 総合的な学習の時間「フードロスについて考えよう」

単元目標：恵方巻の作りすぎや不揃い野菜の流通など身近な問題から課題意識を持ち、体験学習を通じてフードロスへの無力感をなくし、行動へ繋げる。

- | | |
|------|-------------------------------------|
| みつめる | 恵方巻の作りすぎ、不揃い野菜の流通（なぜ均一なものしか売られないか？） |
| しらべる | 顧客によるフードロスの助長、農家やスーパーの方へのゲストティーチャー |
| ふかめる | フードロスの体験（アレルギーを考慮した料理をクラスで作成） |
| ひろげる | 文化祭での発表（ポスター、プレゼンテーション） |

話し合いから

- ・規格外野菜の課題は、農家の方の話を聞くことで真に直面できる大切な視点であり、学びの核となる。
- ・スーパーと地元の朝市の違いを比較し、なぜスーパーは不揃い野菜を扱いにくいのかという流通の問題や、不揃い野菜への消費者の偏見にまで踏み込むべきである。
- ・体験学習の「焼きそば作り」がフードロスにならないかという問いかけから、体験活動の目的をより明確にする必要性が確認された。
- ・消費期限・賞味期限の違いや、加工食品の「手前撮り」など、フードロスを多角的に捉える視点を段階ごとに取り入れることが重要。

2)井上愛香さん(家庭科教育専修3回生)

中学校第1学年 家庭科「1枚の制服が作られるまで」

単元目標：身近な制服から課題意識を持ち、生産地（岡山県）の特性や企業の対策を調べ、服の生産背景について深く振り返る。

- | | |
|------|-------------------------------|
| みつめる | 私服と制服のどちらが良いか、卒業後の制服はどうなるか |
| しらべる | 岡山県の高い制服生産量（全国2位）の背景、制服工場への見学 |
| ふかめる | 自分が着ている洋服、ファストファッション、企業の対策 |
| ひろげる | 生産背景について振り返り、自分事として考える |

話し合いから

- ・単元の生徒のゴールと課題意識をどこに設定するかが重要。
- ・「服育」という新しい視点を取り入れた活動は示唆に富んでいる。
- ・「なぜ制服の工場が多いのか？」という発問は、地域と産業を結びつける良い問いである。
- ・活動を「私服か制服か」の二元論で終わらせず、制服のジェンダーや残したい文化など、幅広く活動を展開することで学びが深まる。

3)池本翔真さん(教職大学院 M1)

小学校第5学年 社会科「これからの食料生産」

単元目標：食料を選ぶ際の基準や日本の自給率の低さに着目し、食料生産に関わる人々の取り組みを調べ、日本の食を守るために自分たちにできることを探る。

みつめる	食料を選ぶときに大切にしていること、食料自給率の低さ
しらべる	食料生産に関わる人の取り組み（朝市の方、漁業・農業）
ひろげる	日本の食を守るために、わたしたちに出来ることは何か

話し合いから

- ・単元に「ふかめる」の段階を設け、より実のある学びにする必要がある。
- ・朝市への見学を1回で終わらせず、「メイドイン王寺」といった地域産品への着目や、地産地消の活動を「ふかめる」に取り入れることが有効。
- ・朝市で見つけた「不揃いでも美味しかった」という生徒の気づきを深掘りすることが大切である。
- ・自給率が高い米についても、価格や消費者ニーズといった多角的な視点から課題を探ることで、学びの幅が広がる。

【ルーム3】 ファシリテーター：圓山裕史（奈良市立伏見小学校）

1) 勝田南美さん(国語教育専修3回生)

小学校第6学年 国語科「古代に生きた人々といまを生きるわたしたち～『古事記』のなかの自然」

みつめる①天岩戸を読む

みつめる②ヤマタノオロチ→自然災害につなげる

調べる お祭りの起源から、地域のお祭り 文化の保存や地域の交流は社会科になってしまう？
→人々の協力でお祭りが成り立っている。今も続いている。

主発問「昔の人々はなぜ、自然を神様や生き物の姿にして物語を作ったのだろうか」

深める 物語が作られた理由

広げる 現代の自然災害、その対策 →自分で物語を創作する

話し合いから

- ・お祭りは唐突感ある。ボリュームミーな単元になっている。
- ・祭りの内容が、ボリュームが出てきてしまっている原因。子どもたちが現代に準えて、物語を作ることが、活動の中心。お祭りを省いてもいい。
- ・私たちも古事記みたいに、自然災害や環境問題を伝えてみよう。（わかりやすく。）
- ・「鳥獣戯画を読もう」から、表現の仕方は文章やイラストなど多様な方法を考えられるのでは

2) 山下恵さん(音楽教育専修3回生)

小学校第3学年 理科「音を作る、未来をつなぐ ―グラスハープで広がる音ともののひみつ―」

見つめる 音はどうやったら出るのか

調べる 材質で音が違うことを調べる

調べる 水の量を増やすと音はどのような変化があるのだろうか。

深める グラスに水を入れて縁を擦ると音が出るのだろうか。

→音は振動によって伝わる

広げる グラスでできたコップをどのように扱うべきか。

話し合いから

- ・音の実験は3年生にとって面白い。理屈をわかると楽しい学習になる。音楽に繋がる。
- ・手作り楽器で資源を使ってみては？自然を表す鑑賞をしてみても？
- ・最後の流れとしては、音の良さに気づくように・・・「人権文化を尊重する」
- ・木琴や鉄琴など、大きさが違えば、音が変わる。

【ルーム4】 ファシリテーター：河野晋也（奈良教育大学）

1) 光延ひなたさん(家庭科教育専修3回生)

小学校第6学年 家庭科「災害時の食生活:防災クッキングから学ぶ」

自然災害が発生したときに起こる食生活の課題に着目した実践。食事の質が低下したり必要な栄養を補えなかったりするというだけでなく、水や食材、調理器具などが不足する状況について課題を感じさせ、防災クッキングに取り組んで、限られた資源を用いて調理する方法を検討させる。

検討会では、家庭科という教科で扱う上では、家庭科の目標をカバーすることが必要である。必要だからと言って、自由に調理実習ができるわけではないのでどのように単元に位置付けるべきか検討する必要がある。またそれまでに学習した内容（衛生面への配慮など）を子どもたちが活用できるよう、単元構想を検討するとよいという意見もあった。また、家庭科として扱う際には「調理の基礎」（調理実習等）として扱うだけでなく、「食事の役割」「家族や地域の人々との関わり」のような単元で防災食を取扱うことも可能ではないかとの意見があった。

2) 峯松拓哉先生(比叡山中学校)

中学校2年 外国語科「海外で生活をするということについて」

英語科の授業と関連させて、海外からの移住者が増加していることに着目した実践。外国の方の困りごとを解決することを目指して実践している。外国語科の授業として、ホームステイに関する英文を読んで解決策を提案する表現を学ぶことを目指している。

検討の中では、英語圏ではない移住者に対してどう対応すべきか（英語でのアウトプットでよいのか）という意見があった。非英語圏からの移住者にどのように向き合っていくかという点も、子どもの思考を促すきっかけになると思われる。また、「外国の人が国内で生活することに困っている」ということに気づかせる手立てが重要であるため、どのように気付かせるかについて検討した。例えば、移住者をゲストティーチャーとして招いたり、自分が海外に住むとしたらどんな困りが生まれるかなどを考えさせたりする手立てが提案された。また、英語の授業だけで収めるべきか、総合的な学習の時間や合科的な授業にする必要がないかという点でも検討が行われた。